

多様な検索結果を表示する可視化手法に関する研究

玉田 雄基

近年は情報爆発と言われるように、インターネット情報空間には膨大な数の Web 文書が存在し、文書数は今もなお爆発的に増え続けている。このような状況の中、検索エンジンを使用するユーザは、自分の求めている情報を得るために検索結果の中から所望の情報を取捨選択しなければならない。また、ユーザが検索で求める情報は多様化・複雑化しており、単一の Web ページから情報を得るだけでは、ユーザの要求を完全に満たすことは難しい。このため、ユーザは 1 つの Web ページだけではなく、複数の Web ページを横断的に閲覧し、必要な情報を選択していくことになる。しかし、複数ページにまたがる情報を閲覧・収集するためには、ハイパーリンクを辿るなど、閲覧ページを次々に切り替えることは、情報の整理や理解が難しくなるなどの問題がある。

本研究では、検索条件を満たす候補ページへのリンク集である検索結果の横断的検索の支援、さらには連続する検索行動で得られる結果集合の間の関係を整理することを目的として、検索結果を俯瞰しながら簡単に情報の比較・理解ができる、新しい検索インターフェースを提案する。検索結果を二次元平面に配置し、ハイパーリンク関係に基づいて個々のページ間の関係や全体の分布を可視化する。従来、一次元である検索結果を二次元平面に可視化することで情報間の関連を分かりやすくし、可視化したページを見ながら閲覧するページを選択できるため、情報の整理が容易になる。

具体的には、Wikipedia のデータを使用し、検索結果をページアイコンとして可視化する。そしてユーザのインタラクションによって閲覧するページを次々に変更ながら、情報要求を満たしていく。また、閲覧して気に入ったページを保持しておくことで情報の比較・検討も行うことができる。これにより、情報を横断的に検索し、ユーザの情報選択を助けるインタラクティブな検索を実現する。

(指導教員 佐藤 哲司)